

「主な取組」 検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	更なる大型クルーズ船の受入体制の構築			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
クルーズ船利用者における、安全性・快適性・利便性の確保及びクルーズ船誘致に向けた取組強化に向け、泊ふ頭岸壁における更なる大型クルーズ船の受入、クルーズ船にも対応したコンテナターミナルの岸壁延伸整備、第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		泊埠頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受け入れの取組				
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
	クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備					
	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		国直轄					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄	国において、第2クルーズバースの整備を行った。	引き続き国において、第2クルーズバースの整備を行うとともに、令和4年度中の暫定供用に向け整備を推進する。
予算事業名		航行安全調査					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
県単等	委託	18,211	-	19,500	-	-	-		新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年度中のクルーズ船の寄港は無かった。	関係機関と連携し、那覇港におけるクルーズ船の寄港再開に向けて受入体制の構築を図る。

活動指標名	R3年度							R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B					
泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受入の取組	-	出入港要領の策定	出入港要領の改訂	沖縄県クルーズ船受入那覇・南部地域協議会の実施	新型コロナウイルス感染症拡大防止施設の整備	新型コロナウイルス感染症拡大防止施設の整備	100.0%	0	順調	ウィズコロナを見据えた感染症拡大防止施設の整備や「沖縄県クルーズ受入那覇・南部地域協議会」を実施し、受入体制の構築を図った他、新港ふ頭地区において、第2クルーズバースの整備を進めた。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、クルーズ船の寄港の目途が立っていない状況であるが、ウィズコロナを見据えた感染防止対策施設の整備や協議会の実施等により受入体制の構築を引き続き実施したとともに、第2クルーズバース整備の進捗を図った。		
活動指標名	R3年度											
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B					
クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備	コンテナターミナルの岸壁延伸工事完了	-	-	-	-	-	100.0%					
活動指標名	R3年度											
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B					
第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組	-	国際旅客船拠点形成港湾の指定	第2クルーズ岸壁等の整備	第2クルーズ岸壁等の整備	第2クルーズ岸壁等の整備	第2クルーズ岸壁等の整備	100.0%					
(2) これまでの改善案の反映状況		令和3年度の取組改善案									反映状況	
那覇クルーズターミナル等において新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組むとともに、第2クルーズバースの整備を推進する。											・ウィズコロナを見据えた感染防止対策施設の整備や協議会の実施等により受入体制の構築を引き続き実施したとともに、第2クルーズバース整備の進捗を図った。	

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・令和元年度に那覇港が国際旅客船拠点形成港湾に指定された。
- ・第2クルーズバースの暫定供用を令和4年度中に予定している。

○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年2月以降、クルーズ船の寄港が途絶えている。
- ・国内クルーズについては、令和2年9月に国等から運行再開に向けたガイドライン等が示されたが、外国クルーズについては、未だ運行再開に向けたガイドライン等が示されていない。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・クルーズ船の寄港再開に向けて、那覇クルーズターミナル等において新型コロナウイルス感染拡大防止対策に取り組むとともに、関係機関や船社と連携し、第2クルーズバースの整備推進を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・当面は国内クルーズの受入再開に向け、受入方針や条件等について関係機関や船社との協議を行い、クルーズ受入体制の構築を図るとともに、日本への海外からの旅行者の入国制限の緩和・撤廃等の状況を踏まえつつ、県観光部局等の関係機関と連携し誘致活動を再開するとともに、受入体制の強化に取り組む。
- ・第2クルーズバースについては、令和4年度中の暫定供用に向け、取組を促進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港コースタルリゾート・ウォーターフロント整備事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
魅力ある観光リゾートとレクリエーションの地形形成を図るため、那覇港における海洋レクリエーション活動に対応したコースタルリゾート及びウォーターフロントの整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			港湾計画改訂			
実施主体	那覇港管理組合、浦添市		港湾計画改訂手続き		環境アセスの実施	
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	那覇港コースタルリゾートウォーターフロント整備事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	当初予算額	主な財源	OR3年度： 港湾計画の改訂に向けた那覇港長期構想の策定を行った。 OR4年度： 港湾計画改訂に向け、関係機関との調整を進めて行く。	
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額				
一括交付金(ハード)	委託	-	-	-	-	-	-	県単等		

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	当初予算額	主な財源	OR3年度： OR4年度：	
		決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額				

活動指標名	港湾計画改訂の手続き				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		-	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた調整	港湾計画改訂に向けた那覇港長期構想の策定	港湾計画改訂後の環境アセスの実施	20.0%	0 大幅遅れ	大幅遅れ
活動指標名					R3年度					
実績値										
活動指標名					R3年度					
実績値										

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・港湾計画改訂に向けた長期構想検討委員会開催に向け、那覇港管理組合構成団体間の合意形成に向けた取組を進める。	・港湾計画改訂に向けた長期構想検討委員会を実施し、長期構想の取りまとめを実施した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加等が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・観光地としての快適な周辺環境の整備を実施するため、引き続き、関係機関との調整を密に行い、早期の港湾計画改訂を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・国等の関係機関との調整を密に実施し、令和4年度以降における早期の港湾計画改訂に向けた取組を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港人流機能強化整備事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向け、緑地や利便性向上施設等の整備、クルーズ受入促進事業などを促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備				
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度	OR4年度
那覇港人流機能強化関連事業									浦添ふ頭東緑地の整備、及び泊港橋における屋根付き歩道の設置を推進する。また、那覇港内において新型コロナウイルス感染症対策を実施する。	泊港橋における屋根付き歩道の設置を推進する。また、那覇港内において新型コロナウイルス感染症対策を実施する。
一括交付金(ハード)	委託	296,689	100,593	76,816	12,952	18,576	30,000	各省計上		
予算事業名									令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：	OR4年度：

活動指標名	R3年度				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備								18,576	順調	浦添ふ頭東緑地の整備完了させたほか、新型コロナウイルス感染症対策として、泊ふ頭旅客ターミナルにおいて新型コロナウイルス感染防止対策施設を整備した。
実績値	利便性向上に向けた整備				利便性向上に向けた整備	利便性向上に向けた整備	100.0%			
活動指標名					R3年度					
実績値										
活動指標名					R3年度					進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値										
活動指標名					R3年度					浦添ふ頭東緑地の整備を完了させたほか、新型コロナウイルス感染症対策として、泊ふ頭旅客ターミナルにおいて感染防止対策施設を整備することにより、観光客や利用者の安全性・快適性・利便性を向上させたとともに、ウィズコロナに向けた整備に取り組んだ。
実績値										
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩道や浦添ふ頭東緑地の整備を推進するほか、クルーズターミナルや泊ふ頭旅客ターミナルにおいて、新型コロナウイルス感染症対策の取組を実施する。						<ul style="list-style-type: none"> 浦添ふ頭東緑地の整備を完了させたことにより、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を向上させることができた。 泊ふ頭地区の泊港橋においては、現在耐震補強工事を行っており、本工事完了後に屋根付き歩道を設置する。 ウィズコロナを見据えた感染対策防止に資する施設整備を実施した。 				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和3年の沖縄県の入域観光客数は減少、減少率ともに過去最大となる等、足下では厳しい状況が続いている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・今後も引き続き観光客・利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向けた施設整備を進めるとともに、那覇港内における新型コロナウイルス感染症対策を進める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮し、泊ふ頭における屋根付き歩道の設置に必要な整備（橋梁耐震工事）を早期に完了させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策の取組を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港産業推進・防災事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
生活基盤としての那覇港の機能維持・強化のために、旅客待合所、上屋等の耐震化や長寿命化対策等を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
			新港ふ頭4号上屋延命化(完了)	新港ふ頭5号上屋延命化(完了)		那覇ふ頭1、2号上屋建替(完了)
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
船客待合所の延命化、耐震化及び建替等の実施						

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 那覇港産業推進・防災事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 那覇ふ頭上屋建替工事を実施した。
県単等	その他	408,923	230,363	135,709	174,305	404,311	298,893	県単等	OR4年度： 引き続き、那覇ふ頭上屋建替工事を推進するとともに、新たに、新港ふ頭地区における上屋建替工事に取り組む。

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：
									OR4年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	船客待合所や上屋の耐震化、延命化等の実施				R3年度			R3年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	船客待合所の耐震改修工事等の実施	船客待合所、上屋の改修工事等の実施	上屋建替設計の実施	上屋建替工事の実施	上屋建替工事の実施	上屋建替工事の実施	88.9%	404,311	順調	那覇ふ頭地区において、上屋の建替工事に実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇ふ頭地区において、上屋の建替工事を行ったことにより、施設の耐震化が推進された。
活動指標名	ガントリークレーン延命化対策事業の実施				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			
	延命化対策工事の実施			延命化対策工事の完了	-	-	100.0%			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・老朽化した那覇ふ頭の上屋建替事業については、令和3年度の事業完了を目指す。	・那覇ふ頭上屋建替事業については、令和4年度上半期中の完了予定である。 ・上屋の老朽化対策の推進のため、新たに新港ふ頭地区の上屋建替事業に着手した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・上屋整備については、供用中のふ頭内で実施することから、荷役関係者等と工事のスケジュールや手順について連携を図る必要がある。

○外部環境の変化

・荷役関係者より、上屋の建物老朽化による雨漏りや壁の剥落等で荷役作業に支障が出ているとの意見がある。
・上屋の破損や動作不良等の老朽化に関する緊急修繕が増えている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・施設の巡回パトロールを強化し、使用者等と連携して、不具合箇所の早期発見、早期解消に努める。

4 取組の改善案 (Action)

・那覇ふ頭の上屋建替え事業については、令和4年度上半期の事業完了を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港臨港道路整備事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港と背後地あるいは那覇港との連携を図るとともに、国際交流・物流拠点の形成に必要な効率的で円滑な貨物輸送を確保するため、臨港道路の整備を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		浦添線完了				
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
		臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備等				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
国直轄	その他	-	-	-	-	-	-	国直轄
臨港道路整備事業								OR3年度： 国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備を推進した。 OR4年度： 引き続き、国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備を推進する。
予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
内閣府計上	補助	25,903	83,524	106,808	108,652	245,071	151,883	内閣府計上
那覇港臨港道路整備事業								OR3年度： 那覇港における港湾2号線改良(液状化対策)工事を実施した。 OR4年度： 引き続き港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、緊急時の港湾貨物の円滑な輸送を確保する。

活動指標名	臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備等				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	245,071	順調	港湾2号線改良(液状化対策)を実施した。
	臨港道路の改良等				臨港道路の改良等	臨港道路の改良等	100.0%			
活動指標名					R3年度			245,071	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、安全・安心な貨物輸送確保への進捗が図られ、順調に取り組んだ。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度			245,071	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、安全・安心な貨物輸送確保への進捗が図られ、順調に取り組んだ。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
・国に対し、計画通りの事業実施を要望するとともに、引き続き臨港道路港湾2号線の整備を推進する。						・国に対して臨港道路若狭港町線の早期整備を要望した。 ・臨港道路港湾2号線について、適正な予算確保に努めた。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地震時の災害においても安全・安心な物資輸送、貨物輸送を確保するため、臨港道路港湾2号線は緊急輸送道路に指定されている。

○外部環境の変化

・令和元年度に新港ふ頭地区において総合物流センターが開業する等、臨港道路港湾2号線における効率的で円滑な貨物輸送の重要性が高まっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・臨港道路港湾2号線においては、国土交通省の防災・減災対策等強化事業推進費等を活用し、早期の整備完了に向けた取組を推進するとともに、円滑な貨物輸送のため、国における若狭港町線の早期整備を要望する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・国に対し、計画通りの事業実施を要望するとともに、引き続き臨港道路港湾2号線の整備を推進する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	中城湾港・海洋レジャー拠点創出事業			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
泡瀬地区については、中城湾港新港地区の浚渫土砂を活用した埋立てにより、スポーツコンベンション拠点の形成を図ることを目的とし、人工海浜や緑地等の整備を行う。 泡瀬地区における港湾施設整備 船揚場・泊地浚渫等 仲伊保地区：船揚場・泊地浚渫 船揚場・防波堤整備等 馬天地区：船揚場・防波堤整備	緑地等整備				
実施主体	県				
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 沖縄振興公共投資交付金(港湾)							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ハード)	直接実施	567,643	1,141,915	1,186,353	757,297	799,401	139,680	一括交付金(ハード)	○R3年度：緑地護岸(約140m)、養浜(2.8万m ³)の整備を行った。 ○R4年度：緑地駐車場の圧密沈下対策のため載荷盛土(約1万m ³)を行う。	

様式1(主な取組)

予算事業名 沖縄振興公共投資交付金(港湾)							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ハード)	直接実施	157,483	218,417	69,714	99,307	24,839	10,000	一括交付金(ハード)	○R3年度：馬天地区は、船揚場ブロック製作を実施。仲伊保地区は、盛土沈下観測調査を実施した。 ○R4年度：馬天地区は、船揚場ブロック設置工事を実施予定。仲伊保地区は、盛土工を実施予定。	

様式1(主な取組)

活動指標名	緑地等整備(泡瀬地区)				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		養浜及び 護岸基礎 整備	養浜及び 護岸基礎 整備	養浜及び 護岸基礎 整備	養浜及び 護岸基礎 整備	養浜及び 護岸整備	養浜及び 護岸整備	100.0%	824,240	順調
活動指標名	船揚場・泊地浚渫(仲伊保地区)				R3年度					
実績値	—	—	—	船揚場整備	船揚場整備	船揚場整備	100.0%	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		
活動指標名	船揚場・防波堤整備(馬天地区)				R3年度					
実績値	船揚場・ 防波堤整 備	船揚場・ 防波堤整 備	船揚場・ 防波堤整 備	船揚場・ 防波堤整 備	船揚場整 備	船揚場整備	80.0%			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 泡瀬地区について、債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。引き続き国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなどイベント利用等を行う。 仲伊保地区及び馬天地区については、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。 						<ul style="list-style-type: none"> 泡瀬地区について、国と連携して、早期整備、部分使用に向けた工程計画の検討を継続的に行っている。また、当該事業に関する関心喚起、理解度向上を目的に、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのイベント(「海の日イベント」)開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響からイベントに代わり、事業のPR新聞広告やテレビ特別番組放送を沖縄市が行った。 仲伊保地区は、盛土沈下観測調査を行うなど適切な施工計画により事業推進に向けて取り組んだ。馬天地区は、港湾利用者へ工事の作業内容や工程等の周知を行い事業推進に努めた。 				

様式1(主な取組)



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)	
○内部要因	○外部環境の変化
—	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用計画の見直しに伴い港湾計画変更の手続きを行っている。 埋立事業について、地元の沖縄市等から早期整備の強い要請がある。 仲伊保地区及び馬天地区については、工事期間中は、地域住民や定期船などの港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要があり、埋め立てを伴う工事については、環境に配慮し整備を推進する必要がある。
(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none"> 泡瀬地区において、工事期間が短いことや多数の工事が混在すること等を踏まえ、早期整備に向けた効率的、効果的な整備推進が必要である。また、事業を円滑に推進するため、県民に対し当該事業に関する関心喚起や理解度向上を図る必要がある。 仲伊保地区及び馬天地区について、地域住民や港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行う必要がある。 仲伊保地区及び馬天地区について、他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進させていく。 	



4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none"> 泡瀬地区について、債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。引き続き国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなどイベント利用等を行う。 仲伊保地区及び馬天地区については、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。
--

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	圏域の拠点港湾(石垣港、平良港、本部港)の整備			
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
石垣港、平良港、本部港において、クルーズ船誘致に向け大型クルーズ船に対する岸壁や旅客ターミナルの整備、岸壁整備、ふ頭用地、防波堤の整備を行い、安全性・快適性・利便性の確保に努める。	(石垣港) 岸壁・防波堤・泊地浚渫等				
	大型旅客ターミナルビル整備等				
	第2クルーズバース岸壁等の整備に向けた取組				
	(平良港)				
	港湾計画改訂手続き				
	岸壁・臨港道路整備 R2供用開始				
	ターミナルビル整備 R2供用開始				
	耐震強化岸壁整備、ふ頭用地、臨港道路・緑地等の整備				
	(本部港)	防波堤整備(供用)	防波堤整備(供用)		
	岸壁・防波堤の整備				
実施主体	国、石垣市				
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】		
			ターミナルビル整備(共用)		
			ターミナルビルの整備		

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 石垣港港湾改修事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度： 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行った。	
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	○R4年度： 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備を行う。	
予算事業名 平良港港湾改修事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度： 国直轄において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁の整備を実施した。	
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	○R4年度： 国直轄において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁の整備を実施する。	
予算事業名 本部港(本部地区)港湾改修事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R3年度： 岸壁(-10.5m)、泊地浚渫の整備を実施した。	
内閣府計上	直接実施	1,296,537	1,441,302	2,132,826	220,400	1,022,173	0		○R4年度： 繰越事業にて、岸壁(-10.5m)の整備を実施する。	

様式1(主な取組)

活動指標名	大型旅客ターミナル整備等(石垣港)				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	100.0%	1,022,173	順調	石垣港については、大型旅客船ターミナル整備事業を実施し、同岸壁の暫定供用も開始された。平良港においては国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁等の整備を実施した。また、本部港においては国際クルーズ船が寄港可能な岸壁、泊地浚渫及び防波堤沖の整備を実施した。
活動指標名	岸壁、臨港道路、ターミナル整備等(平良港)				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	100.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 石垣港、平良港については、国において計画的に進捗がなされており、本部港においては岸壁の整備を実施し、沖防波堤整備もH30年度に全長240mが完了している。ターミナルビル整備については、本部港は覚書を締結できていないが、平良港は令和2年度に整備が完了したため、全体的な進捗としては順調とした。
活動指標名	岸壁・泊地浚渫・ターミナルビル整備等(本部港)				R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	100.0%			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 石垣港、平良港では、県として、国、石垣市及び宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。 覚書の早期締結に向け、連携船社やCIQ関係機関との調整を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> 国に対し、事業の早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。 本部港の工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整え密に連携をとって、環境に配慮した施工を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)	
(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
○内部要因 ・国、石垣市及び宮古島市に対し、事業の早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。 ・本部港の工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整え密に連携をとって、環境に配慮した施工を行った。	○外部環境の変化 ・工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整え密に連絡をとって、環境に配慮した施工を行った。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none"> 工事を行う際は、環境に配慮するとともに、港湾及び海域利用者の理解と協力を得ながら整備を推進する必要がある。 地元関係機関との役割分担等を調整しながら、供用開始までに体制整備を進める。 	



4 取組の改善案 (Action)
<ul style="list-style-type: none"> 石垣港、平良港では、県として、国、石垣市及び宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。 本部港では、覚書の早期締結に向け、連携船社やCIQ関係機関との調整を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	那覇空港自動車道の整備			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇空港と沖縄自動車道を連結し、本島中南部・北部の各拠点の地域振興の支援、物流の効率化及び交通混雑の緩和を図るため、高規格幹線道路として那覇空港自動車道（小禄道路）の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	国					小禄道路の整備
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課 【098-866-2390】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R4年度					令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
道路交通円滑化改築（国道506号）								
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄
国直轄								OR3年度：国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 OR4年度：国直轄で小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。
国直轄事業県負担金（国道506号）								
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	負担	355,014	485,340	601,248	636,990	554,000	640,000	県単等
県単等								OR3年度：国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 OR4年度：国直轄で小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。

活動指標名	R3年度				R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要			
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	554,000	順調	国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 小禄道路の事業進捗率は約77%で整備は着々と進んでおり順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。
	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	100.0%			
活動指標名	R3年度									
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	R3年度									
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況					反映状況					
令和3年度の取組改善案										
・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。					・県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は新型コロナウイルスの影響により昨年は減少したものの、それ以前は毎年約11%増と高い伸びを示しており、新型コロナウイルスが収束すれば再び増加することが想定される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	沖縄西海岸道路の整備			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
中南部圏域西海岸の地域拠点、広域交流拠点（那覇空港、那覇港）、高規格幹線道路（沖縄自動車道、那覇空港自動車道）を相互に連絡し、物流の効率化、交通渋滞の緩和を図るため、地域高規格道路として沖縄西海岸道路の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		浦添北道路 暫定供用				
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課	【098-866-2390】				
		読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 道路交通円滑化改築事業（国道58号）							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 OR4年度： 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄		
予算事業名 国直轄事業県負担金（国道58号）							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 OR4年度： 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	
県単等	負担	389,195	152,189	135,250	73,000	149,000	233,000	県単等		

活動指標名	読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施	事業の実施	整備の実施	100.0%	149,000	順調	国直轄で、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 読谷道路の事業進捗率は約37%と、沖縄西海岸道路の整備は着々と進んでいるため、順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。					・県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回（5月、11月）行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は新型コロナウイルスの影響により昨年は減少したものの、それ以前は毎年約11%増と高い伸びを示しており、新型コロナウイルスが収束すれば再び増加することが想定される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案 (Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	ハシゴ道路等ネットワークの構築			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
都市部の渋滞緩和、観光支援及び物流の効率化等を図るため、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶハシゴ道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備を行う。				浦添西原線(嘉手苺~小那覇)供用		
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【098-866-2390】			
		浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名		地域連携推進事業費 (地域高規格道路)					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
内閣府計上	直接実施	1,634,770	1,645,742	2,157,421	2,857,601	2,506,898	2,600,000	内閣府計上	○R3年度: 南部東道路(橋梁工事、道路改良、用地補償)の整備を行った。 ○R4年度: 南部東道路(橋梁工事、道路改良、用地補償)の整備を行う。
予算事業名		社会資本整備総合交付金 (道路)					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
内閣府計上	直接実施	5,563,770	3,668,957	3,625,784	3,851,705	2,212,697	2,454,400	内閣府計上	○R3年度: 浦添西原線(道路改良、用地補償等)、宜野湾北中城線(道路改良)、那覇北中城線(道路改良、用地補償等)等の整備を行った。 ○R4年度: 浦添西原線(道路改良、用地補償等)、那覇北中城線(道路改良、用地補償等)、豊見城糸満線(道路改良、用地補償等)等の整備を行う。

様式1(主な取組)

予算事業名		沖縄振興公共投資交付金 (街路)					R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	3,220,178	2,150,656	3,216,587	3,846,847	3,399,029	1,467,853	一括交付金(ハード)	○R3年度: 豊見城中央線(用地補償等)、汀良翁長線(用地補償等)、真地久茂地線外1線(用地補償等)等の整備を行った。 ○R4年度: 真地久茂地線外1線(用地補償等)、豊見城中央線(用地補償等)、胡屋泡瀬線(用地補償等)等の整備を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	92.0%	8,118,624	順調
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
								進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 各路線の整備も概ね計画どおりに進められていることから、順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。		
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
・工事発注が可能となるよう連続した用地取得に取り組むとともに、部分的な開通等により事業の早期効果発現を図る。						・新型コロナウイルスの影響により用地交渉の実施が計画通り進まない中で、工事発注が可能となるよう連続した用地取得に可能な限り取り組んだ。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<input type="radio"/> 内部要因 ・連続した用地取得に取り組んだものの、難航箇所もあって買収済み用地が点在しているため、工事発注できない。	<input type="radio"/> 外部環境の変化 ・新型コロナウイルスの影響により用地交渉の実施が計画通り進まない。 ・労務単価や資材単価が年々上昇している。
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
・工事発注が可能となるよう連続した用地を取得するため、集中的に用地交渉を重ねるとともに、必要に応じて説明会を開催して丁寧な説明を行い、それでも難航するようであれば収用裁決に向けた手続きを行う必要がある。 ・継続事業箇所にも主要渋滞箇所が含まれる場合、事業の早期効果発現を図るため、渋滞箇所の用地を集中的に取得し、先行して改良を行う必要がある。	



4 取組の改善案 (Action)

・工事発注が可能となるよう連続した用地取得に取り組むとともに、部分的な開通等により事業の早期効果発現を図る。
--

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	沖縄都市モノレール延長整備事業			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
沖縄都市モノレール及び関連施設の整備を図ることで、定時で利便性の高い公共交通ネットワークを形成・拡大させ、自動車から公共交通機関への転換を促し、那覇都市圏の渋滞緩和及びそれに伴う二酸化炭素排出量の削減に寄与する。		H29	H30	R元	R2	R3
		79% モノレール延長整備事業進捗	100%	供用		
実施主体	県、市、事業者		・延長区間:那覇市首里汀良町(首里駅)～浦添市前田			
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課		【098-866-2408】 ・長距離:4.1km(4駅)			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 沖縄都市モノレール延長整備事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度: モノレール関連道路・街路の整備を行った。	
							240,465	一括交付金(ハード)	OR4年度: モノレール関連道路・街路の整備を行う。	
一括交付金(ハード)	補助	18,830,767	13,502,488	7,531,156	349,858	179,343				
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度:	
									OR4年度:	

活動指標名	モノレール延長事業進捗率				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 てだこ浦西駅付近で道路を供用するとともに、モノレール延長整備に関連する関連道路、街路の整備を行った。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	0.796	0.884	0.979	0.984	0.986	0.993	99.3%	179,343	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 関連道路、街路については一部を除き暫定供用を開始しており、また、実績値が計画値を若干下回っているものの、ほぼ達成していることから、順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
・関連する区画整理事業者と連携し、周辺の道路整備を促進させる。					・浦添市が施行する浦添前田駅周辺区画整理事業およびてだこ浦西駅周辺区画整理事業の2事業は、てだこ浦西駅付近の幹線街路が供用するなど、着実に進捗している。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・浦添市が施行する浦添前田駅周辺区画整理事業およびてだこ浦西駅周辺区画整理事業の2事業が遅れている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・モノレール関連施設や周辺道路の暫定供用を開始し、また、令和4年1月には市施行の幹線街路が暫定供用を開始したことで、てだこ浦西駅周辺の道路ネットワークが充実化され、てだこ浦西駅前に乗り入れる路線バス本数が増加していることから、公共交通への転換をさらに促す。

4 取組の改善案 (Action)

・関連する区画整理事業者と連携し、周辺の区画整理事業や道路整備を促進させる。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	沖縄都市モノレール輸送力増強事業			
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
沖縄都市モノレールの時間当たりの最大混雑率を120%未満に抑えるため、2両1編成の車両を3両1編成化し輸送力の増強を図る。また、これと併せて車両を留置する新車両基地を整備する。		H29	H30	R元	R2	R3
					車両の設計 車両基地の設計	車両基地の整備 車両製造
実施主体	県、那覇市、浦添市、モノレール事業者					
担当部課【連絡先】	工不建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
					モノレール車両を2両編成から3両編成へ増備	

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	沖縄都市モノレール輸送力増強事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：3両編成車両製造、分岐器製造及び可動安全柵設置工事を実施し、また、新車両基地に関する詳細設計が完了した。	
									OR4年度：分岐器製造を完了させ、新車両基地の工事に着手する。	
					322,005	1,758,406	4,993,000	一括交付金(ハード)		
予算事業名	沖縄都市モノレール輸送力増強事業(インフラ部)						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：分岐器製作を実施。引き込み線詳細設計が完了し、分岐橋改修工事及び一部の下部工事に着手した。	
									OR4年度：分岐器製作の継続実施。分岐橋改修工事、全ての下部工事、上部工製作・架設工事及び分岐器設置を実施する。	
					5,170	215,685	385,000	一括交付金(ハード)		

活動指標名	モノレール輸送力増強進捗率				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
				1.2%	8.2%	22.2%	36.9%	1,974,091	大幅遅れ	製造メーカーが設計を行う分岐器製作及び可動安全柵製作設置工事、並びに3両車両の製造に着手している。また、新車両基地及び引き込み線の詳細設計が完了し、順次、各種工事に着手した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 新車両基地詳細設計においては、施設配置や留置線の見直し等、建設工事を具体的に想定した設計検討、また、引き込み線詳細設計においては、既存支障物件や近接工事への影響対策についての設計検討など、これらに不測の時間を要し、当初計画に比し詳細設計の完了時期に遅れが生じた。また、近接工事への影響を最小限とするための工事発注範囲や発注方式等の検討に時間を要したため工事発注時期も遅れることとなった。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
・国道側と工程調整を密に行い、早期に対策案を策定、実施することでコストの縮減や対策に要する期間の短縮を図る。						・近接工事となる赤嶺トンネル工事及び新車両基地建設工事との工事工程について、各事業者相互に念入な確認を行い、当事業が互いの工事により一時中断等は手戻り等が生じることの無いよう努め、他工事への影響を早期に把握することで対策に要するコストを必要最小限に抑制するとともに当事業の全体的なスケジュールを管理した。 ・このことにより、令和4年度当初には新車両基地建設工事及び引き込み線工事に着手する見込みであり、事業全体のスケジュールに影響なく計画通り概ね順調に進捗している。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・新車両基地へ引き込むための分岐器設置工事は、本線におけるモノレールの運行を休止する必要があるため、モノレール利用者への影響が避けられない。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・モノレールの運休を伴う分岐器の設置はクレーンによる作業となることから、実施日の検討にあたっては台風襲来の可能性が最も低くなる時期を選定し、運行停止日数については利用者をはじめ運行事業者への影響を最小限に抑えた計画で実施する。

・なお、運行停止日の告知については、観光客を含む利用者への社会的影響を考慮し一定程度の告知期間を設定したうえで案内する。

4 取組の改善案 (Action)

・運行停止に伴う利用者への影響を最小限に抑えるため、利用者への周知徹底や代替輸送の検討など利用者への様々な負担を軽減が図られるようモノレール運行事業者との打合せを留意周到に行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○観光地巡りが楽しくなるみちづくり
主な取組	観光周遊自転車ネットワークの形成			
対応する主な課題	⑤中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖繩らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
自転車道利用環境の整備による観光周遊自転車ネットワークを形成し、これまでのレンタカーによる観光から、自転車の利用促進も含めた多様な交通環境への転換を図り、観光まちづくりに取り組む。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		観光周遊自転車ネットワークの選定、整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		H29年度					H30年度					R元年度					R2年度					R3年度				
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画																	
							当初予算額	主な財源	OR3年度： 名護市自転車ネットワークの区間において、自転車通行空間の整備を行った。沖繩県自転車ネットワーク計画(案)の策定を行った。																	
一括交付金(ハード)	直接実施	81,930	39,148	49,599	33,687	25,841	20,000	一括交付金(ハード)	OR4年度： 沖繩県自転車ネットワーク計画(案)に基づく整備検討を行う。																	

予算事業名		H29年度					H30年度					R元年度					R2年度					R3年度				
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画																	
							当初予算額	主な財源	OR3年度：																	
									OR4年度：																	

活動指標名	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークのルート決定	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	80.0%	25,841	概ね順調
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会を通して、他県の先進事例を参考に走行環境等の整備方針に関する提案を行い、多方面の意見を取り入れ、具体的な整備内容を決定できるようなり取り組む。	・本部半島・羽地内海サイクルツーリズムの一部区間で自転車通行空間の整備が行われた。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

-

○外部環境の変化

・他県の先進事例では、受入環境整備、魅力づくり、情報発信等の取り組みを確立させ、観光地として認知されている地域がでてきている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・観光周遊自転車ネットワークの形成については、走行環境の整備だけでは、効果を発揮できないため、国、市町村、関係機関と連携して受入環境整備、魅力づくり、情報発信等の改善方策や、役割分担を検討し、他県の先進事例を参考にサイクルツーリズム推進にかかる総合的な改善を図っていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・本都半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会を通して、他県の先進事例を参考に走行環境等の整備方針に関する提案を行い、多方面の意見を取り入れ、具体的な整備内容を決定できるよう取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	沖縄フラワークリエイション事業			
対応する主な課題	⑤中高齢及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、観光地アクセス道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、沖縄観光のイメージアップと振興に寄与する。		H29	H30	R元	R2	R3
		70km 道路緑化・重点管理延長				80km(累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【098-866-2665】			
		観光地アクセス道路の緑化・重点管理				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 沖縄フラワークリエイション事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施した。	
									OR4年度： 観光地へアクセスする道路への緑化・重点管理を推進する。計画値：80km(累計)	
一括交付金(ソフト)	委託	519,995	368,203	374,206	423,881	370,844	636,533	一括交付金(ソフト)		
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：	
									OR4年度：	

活動指標名	R3年度				R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度				実績値(A)
道路緑化・重点管理延長	70km	80km	80km	80km	80km	80km	100.0%	国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施した。
活動指標名	R3年度				R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度				実績値(A)
					370,844		順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 計画80kmに対し、実績80kmとなっており、順調に進捗している。国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施したことにより、観光地沖縄としてのイメージアップと温暖化防止に寄与することができた。
(2) これまでの改善案の反映状況								
令和3年度の取組改善案					反映状況			
<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所の環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図る。 道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。 					<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール等を実施し、草花等の育成管理を年間通じて実施した。また、季節や植栽箇所の状況等に応じ、草花や花木を選定し、植物が良好な状態を保てるよう灌水などの対応を取った。また、造園業者と意見交換会を実施し、品質の向上に努めた。 道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の490団体から、450団体まで増加させることができた。また、道路ボランティア普及啓発のため、テレビ・広報誌での広報を行ったほか、県独自の道路ボランティア表彰制度を策定した。 			

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄観光のイメージアップのため、観光地までの主要アクセス道路について、年間を通して花と緑のある良好な道路空間を創出し、道路景観の向上と維持させる取り組みが求められている。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・年間を通して花や道路植栽を良好に保つためには、気候や周辺環境に応じた花木や草花を選定し、適切な育成点検や灌水を行う必要がある。
- ・メリハリある植栽・維持管理を行い、かつ効果が持続的で、良好な沿道景観の維持・向上に努める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・定期的なパトロール等により植栽箇所の環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように剪定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して品質確保と向上を図る。

・道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。

・限られた予算で効果的・効率的な植栽管理を実施するための実効性のあるしくみづくりを行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	主要道路における沿道空間の緑化事業			
対応する主な課題	⑤中・高齢者及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖繩らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、主要道路の重点緑化を行い、沖繩らしい風景づくりを推進するとともに、温暖化防止に寄与する。		H29	H30	R元	R2	R3
		280km 道路緑化・育成管理延長				300km(累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【098-866-2665】			
		亜熱帯性気候を活かした道路植栽・街路樹の育成管理				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)	
予算事業名 県単道路維持費							R4年度	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
								令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
県単等	委託	933,724	1,109,380	1,193,756	1,219,928	1,073,696	1,133,122	県単等
							令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
							OR3年度： 主要道路(290km)について、沿道空間における除草や道路植栽・街路樹の剪定を通年実施した。	
							OR4年度： 効率的・効果的な除草作業と、道路植栽の適正管理を実施し、沿道環境に配慮した道路空間の創出を図る。	

活動指標名	R3年度				R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度				実績値(A)
道路緑化・育成管理延長	280km	285km	290km	290km	290km	300km	96.7%	1,073,696 順調
活動指標名	R3年度							
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B	

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 「沖繩県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づいた管理を継続し、新たな雑草防除及び景観形成に有用な植物の導入試験により効果があった手法について、実施範囲を拡大することにより、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。 路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけて街路樹の剪定を行う。 道路ボランティアの普及啓発に向けて、民間を活用した手法を試行的に行い効果の検証を行う他、ボランティアへの表彰を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインに基づき管理を行い、アレロパシー植物や芝等における実証試験のモニタリングや各土木事務所を含めたワーキング会議の実施により、フォローアップを行い、有効な植栽管理について意見交換を行った。また、芝の活用や新たなアレロパシー植物の試験施工を行い、良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図った。 「良好な沿道景観形成のための街路樹のあり方計画」を策定し、メリハリのある管理区分や、ゾーニングごとの緑化目標像を設定した。 道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の490団体から、540団体まで増加させることができた。道路ボランティア普及啓発のため、テレビ・広報誌での広報を行ったほか、県独自の道路ボランティア表彰制度を策定した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・主要道路における沿道景観の緑化事業については、沿道環境に配慮した道路空間の創出のため、年4回程度の除草作業が必要であり、路線の状況に合わせて除草回数を増やしたり、雑草の刈払い後に除草剤を散布するなど、効率的・効果的な植栽管理が必要である。

・街路樹の剪定について、道路利用者の安全性確保を優先し、交差点部など必要最小限しか行えず、適正管理の観点からは改善すべき点が多い。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・道路植栽の管理については、「沖縄県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づき、雑草の刈払い後に除草剤を使用するなど、効率的・効果的な管理を行っており、今後も、当該ガイドラインに準じた作業を周知・徹底し、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る必要がある。

・街路樹の剪定については、路線状況に応じて優先順位をつけるなど、街路樹の管理の改善に取り組む必要がある。

・道路ボランティアとの協働による美化にも取り組んでおり、継続してボランティアの支援強化と普及啓発にも努めていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・「沖縄県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づいた管理を継続し、効果があった手法について、実施範囲を拡大するとともに、性能規定による植栽管理路線を拡大することにより、良好な沿道景観の維持を図る。

・限られた予算で効率的・効果的な植栽管理を実施するための実効性のあるしくみづくりを行う。

・道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	宮古広域公園整備事業			
対応する主な課題	⑤中・高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖繩らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
伊良部大橋の開通により一体となった宮古圏域において、観光振興と定住環境の整備に寄与する広域的なレクリエーションの場として、宮古広域公園を整備する。		H29	H30	R元	R2	R3
実施主体	県、宮古島市					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市公園課 【098-866-2035】					
		基本設計、環境アセス、用地補償、整備				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	公園費(単独事業、社会資本交付金)						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 事業化に向けて関係機関と協議し、都市計画決定及び都市計画事業認可を受けた。 OR3年度： 事業を推進するため、用地買収等を進める。	
							県単等	委託		

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： OR4年度：	

活動指標名	基本設計、環境アセス、用地補償、整備				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
		-	-	環境アセスの実施	都市計画 決定 都市計画 事業認可	用地買収等	用地買収等	99.9%	726,287	順調
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和3年度の取組改善案	反映状況
・当該公園の基本方針(海と海辺を活かした公園)を踏まえ、エコアイランドとしての宮古圏域のイメージを活かした施設および多様なレクリエーション需要に対応した公園の施設設計を行うため、関係機関等との協議体制により整備を推進する。	・関係機関等との協議体制をつくり検討を進めた。また、公園整備に向けて用地補償を進めるとともに、調査検討を行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・宮古島の観光スポットとして根付きつつある民間施設が公園予定地内の中央部に位置しており、有効活用方法を検討する必要がある。

○外部環境の変化

・平良港「国際クルーズ拠点」の指定に伴い、近年、宮古圏域における外国人観光客は大幅に増加しており、観光リゾート地としての魅力向上を図るため、広域的なレクリエーション需要に対応した広域公園の整備に努める必要がある。

・令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、観光客は減少している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・エコアイランドとしての宮古圏域のイメージを活かした施設を検討していく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・当該公園の基本方針(海と海辺を活かした公園)を踏まえ、エコアイランドとしての宮古圏域のイメージを活かした施設および多様なレクリエーション需要に対応した公園の施設設計を行うため、関係機関等との協議体制により整備を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○誰にでも優しい観光地づくり
主な取組	案内表示の充実強化(道路案内標識等)			
対応する主な課題	④外国人観光客の受入体制については、多言語表記による観光案内板の整備などが観光客数の拡大傾向に追いついていないことや、国際的な観光地に比べ脆弱な決済インフラや通信インフラの解消が課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
道路案内標識の適切な設置および修繕・更新を行うとともに県内の主要な地名を示す目標地や主要な観光地を示す著名地点等をローマ字、英語を併記することで外国人観光客等の道路利用者に対してわかりやすい情報提供を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		12基 案内標識の設置・更新・修繕				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【098-866-2665】			
		案内標識の設置・更新・修繕				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
公共交通安全事業・道路防災保全事業									
一括交付金(ハード)	直接実施	118,446	138,379	178,098	182,640	12,314	75,000	一括交付金(ハード)	OR3年度: 案内標識の設置・更新・修繕を36基行った。 OR4年度: 案内標識の設置・更新・修繕を12基行う。
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
									OR3年度: OR4年度:

活動指標名	案内標識の設置・更新・修繕				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	18基	82基	41基	17基	36基	12基	100.0%	12,314	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 案内標識の設置・更新・修繕については、計画値12基に対して、実績値36基であることから順調に進捗しており、外国人観光客を含めた道路利用者の移動の円滑化が図られ、観光振興に資することができている。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案					反映状況					
・人に優しい安全・安心・快適な観光づくりのため、案内表示の充実強化について、道路案内標識の表示内容を点検し、国・県の道路管理者が一体となり、必要に応じ、修繕・更新の整備を行う。					・標識の要望に対し、沖縄ブロック標識適正会員化で情報共有し、国やNEXCO等の道路管理者と連携しながら、表示内容の統一を図っている。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

-

○外部環境の変化

・地域から特定の施設や観光地へ利用者を安全かつ円滑に誘導するため、案内標識の設置要望が上げられている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・特定の施設や、観光地への案内は、国、県、NEXCOの管理する道路を経由して案内することもあるため、ルート選定や、変更は、道路管理者間で調整を行い連携していく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・人に優しい安全・安心・快適な観光づくりのため、案内表示の充実強化について、道路案内標識の表示内容を点検し、国・県の道路管理者が一体となり、必要に応じ、修繕・更新の整備を行う。